



# 藝 藝



うえる

「藝える」は「うえる」と読みます。今号はダイバーシティ特集です。ダイバーシティは多様性という意味ですが、性別、障がいの有無、国籍、人種、LGBTQであるか、さらに宗教や思想信条などで差別せず、多様性を受け入れるという理念と実践の意が込められています。私はデザイン科の教員ですが、デザイン科にとつてこの春就任した Sputniko! さんが初の准教授以上の女性常勤教員です。デザイン科の10名の教授・准教授のうち女性はまだ1人。学生は7割が女性です。本学の女性教員は増えつつづけていますが、世界レベルのダイバーシティの実現には課題がたくさんあります。本特集はあえてそこに斬り込みます。芸術はそもそも豊かな多様性の中から生まれるべきものです。藝大がダイバーシティの先進機関になるために何をなすべきなのか。

藤崎圭一郎／美術学部デザイン科教授・本誌編集長

## 目次

## 特集

01

### これからのダイバーシティ

02

芸術界のダイバーシティ観を揺るがす!?  
学長対談！

### Sputniko! × 澤和樹

10

芸術とジェンダー  
私たちが、いま考えるべきこと  
岡本美津子 × 福中冬子 × 荒木夏実

16

中村美亜さんに聞く

社会のなかで  
芸術活動をするということ  
聞き手＝近藤銀河

22

藝大のダイバーシティ関連の  
取り組みいろいろ

26

授業 SANKAN  
GO! GO! 古美研スペシャル

1日目＝「帰ってきた“最強の案内人”」  
法隆寺・中宮寺・法輪寺・慈光院

2日目＝「宝物はいと高きところに」  
室生寺・長谷寺・聖林寺

34

藝える人!? ミケと芸猫会

36 お知らせ

種、国籍、宗教、年齢、学歴、職歴、障がい、姿勢など、個人個人がもつてさまざまな違いに価値をおく考え方。マイノリティを包摂する「多様性の受容」を意味する。1960年代の米国で、公民権運動をはじめとする黒人差別や女性差別に対する取り組みのなかで生まれてきた概念。現在では、政治的正義を支える概念としてだけではなく、ビジネスの世界でもコンプライアンスリスクマネジメントの観点から、重要度を増している。また、差別のない処遇を実現し、多様性を生かすことなどが事業の成長を促すとも認識されるようになり、マネジメント手法として取り組んでいる企業もある。

一般的。さらにそれ以外の性を含む「LGBTQ+(+）」、すべての性は異なる「セクシュアル・オーリエンテーション（Sexual Orientation）& ジェンダー・アイデンティティ（Gender Identity）」など多くの言葉が登場する。

なみに「性同一性障害」は医学用語であるが、近年、アメリカ精神医学会では「性別違和」、WHOでは「性別不合」と診断名を変更、「障害」という言葉が外された。

性にとらわれず自己肯定的に用いる進的な人々が現れ、現在ではさまざまなセクシュアルマイノリティを包摂する言葉として使われるようになった。

## 特集

度を増していく。また、差別のない処遇を実現し、多様性を生かすことが事業の成長を促すとも認識されるようになり、マネジメント手法として取り組んでいく企業もある。

LGBTQ【エル・ジー・ビーティー・キュー】 [Lesbian レズビアン] [Gay ベイ] [Bisexual ビセクナル]

「藝大に、芸術界に、社会にあるべきダイバーシティ像とは?」「ダイバーシティってなに?」という人も、問題に直面している人もヒントが得られるはず。まずは、関連用語の解説からどうぞ。

(レズビアン)」「Gay(ゲイ)」「Bisexual(バイセクシュアル)」「Transgender(トランスジェンダー)」「Questioning(クエスチョンング)」および「Queer(クイア)」の頭文字をとったセクシュアルマイノリティの総称。1980年代にアメリカで「LGBT」という言葉が登場し、90年代からトランスジェンダーを加えた「LGBTQ」が使われるようになり、現在は、どのセクシュアリティにも属さないクエスチョンングおよびクイアを含む「LGBTQ+」が

ヒントが得られるはず。まさか、閥連用語の

解説からどうぞ。

英語ではソーシャルインクルージョン（social inclusion）。「社会的包摂」「社会的包容力」などとも訳される。国連の「障害者の権利に関する条約」の基本理念でもあり、バリアフリーやユニバーサルデザインの推進活動なども含まれる。反対語は社会排除（＝ソーシャルエクスクルージョン）。

# 学長 対談！

芸術界の  
ダイバーシティ観を  
揺るがす？！



Sputnik!

東京減点女子医大学長

ダイバーシティ  
特集①

美術学部絵画棟 1F の大石膏室にて。貴重  
な石膏像がひしめき合う、藝大の聖域とさ  
れる場所で思い浮かぶのは入試のデッサン。

「東京減点女子医大」学長を務める

スプツニ子！准教授の指摘に

澤学長の耳が痛む？！

考え、伝える力を養う

ダイバーシティの重要性とは。

文＝中村志保

# 澤和樹

東京藝術大学学長



**Sputniko! (以下、S)** 今年4月、デザイ  
ン科の准教授に就任したSputniko! (スプツ  
ニ子！)です。今日はよろしくお願ひします。  
**澤学長(以下、澤)** 日本人のお父さまとイ  
ギリス人のお母さまをもち、海外生活も長く、  
若手であり、またアーティストであるスプツ  
ニ子！さんは、多様性のある大学環境を目指  
す本学にとつてまさに「ダイバーシティの鑑」  
ともいえる存在で、藝大に来ていただけて頼  
もしく思っています。さて、スプツニ子！さ  
んは「東京減点女子医大」の学長を務めてい  
ますが、どんなプロジェクトか教えていただ  
けますか？

**S** はい。学長の時はもう少しコワいキャラ  
なんですよ。（キリッと姿勢を正して）では、  
東京減点女子医大がどんな大学かご説明しま  
す。2018年に、国内の名門として知ら  
れる医大が、一般入試で女子受験者の得点を  
減点していくことが大きなニュースになつた  
のは記憶に新しいことだと思います。日本の  
医療界つてエリートの男性ドクターが大好き  
ですよね。そこで我が校がやろうとしている  
のは、日本の医大から排除された女性たちの  
手で、そのドクターをつくつてしまおうとい  
うこと。そんなに欲しいならくれてヤルつて。  
あ、ちょっと口が悪かつたですね、失礼しま  
した（笑）。というわけで、女子学生たちが  
生産した完璧なドクターを箱詰めして、ドロ  
ーンで全国どこでも配達いたします。入学案  
内へのパンフレットももちろん用意しています  
よ。また、クラウドファンディングのサイト  
にアクセスして10万円を寄付していただけれ  
ば、裏口入学ができるという仕組みになつて  
います。試験に受からなくても入学できちゃ  
うんですよ。澤学長もいかがですか？

**澤** あら、それは僕でも入れそうですね（笑）。  
**S** ザビ。一般の医大に比べると10万円なん  
てすごくリーズナブルだと思いませんか？  
もちろん男子学生もウエルカムで、女子学生  
にエリートドクターに改造してもらえます。  
**澤** なるほど。その昔、僕も医者になりたか  
った時期があるので、うつてつけですね。

**S** 我が校でその夢を叶えましょう！……と、  
今秋このプロジェクトの個展を開く予定なの  
で、現在こうやって大々的に大学紹介を行つ  
て、皮肉満載のフェイクの大  
学といえбаいいでしようか。東京減点女子医  
大はある意味、藝大とは対極にある大学かも  
しれませんね。日本の医療界がエリートの男  
性を求めているとしたら、藝大が求めるのは  
むしろ「箱詰め」できない人たちだと思うので。  
**澤** 確かにそうですね。例えば、発達障害と  
診断されている人のなかにも飛び抜けた才能  
をもつ人がいるケースはよくありますよね。  
そのような人たちにとつても、藝大が活躍の  
場になれるのではないかと考えています。  
**S** ええ、物事を見る視点が多様な環境はす  
ごく健全です。今の学校教育や社会では「正  
解」を求めすぎていると感じます。正解以外  
が排除されてしまうのは恐ろしいこと。評価  
軸を多様化させることが大切ですよね。

**澤** 実は、創作活動においてさまざまな専門  
領域の研究や発想と出合うことが重要だと考  
え、異分野との連携を東大、東工大、慶應、  
順天堂などの大学や研究機関と進めています。  
とりわけ東大医学部などと進めている「Arts  
Meet Scienceプロジェクト」では、学生主  
導でイベントや研究会が開かれていて、企業  
が協力を始めています。多様化が進む現代に



学長を務めるスプツニ子！(右)と、理事の西澤知美  
(藝大大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了)。



架空の手術支援ロボット「フリーダ」を操作し、女子学生らが一般男性を“日本が愛してやまない”エリート男性ドクターへと改造する。



エリート男性ドクターはドローンに搭載され全国の病院へと出荷される。医大から排除された女性たちも医療界に貢献できるというわけだ。

## 東京減点女子医大とは？

2018年8月、一般入試で女子受験者に不利な得点操作をしていた医科大学の事件が報じられたことを機に始動したプロジェクト。アーティストのスプツニ子！と西澤知美により設立された架空の大学で、医療界から排除された女子学生たちが無敵のエリート男性ドクターを作り上げ、全国の病院へ配達。日本の女性差別問題を皮肉と風刺を込めて作品化する。今後、写真作品、インスタレーション、トークイベントなど幅広く展開予定。



## Sputniko!

スプツニ子！

1985年生まれ。ロンドン大学インペリアル・カレッジ数学部を卒業後、英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)にて修士課程修了。2013年よりマサチューセッツ工科大学(MIT)でメディアラボ助教として活動。19年4月より、東京藝術大学美術学部デザイン科准教授。

ほどが男性。デザイン科では私が初の女性教員だということに驚いたのですが……。

**澤** 僕が3年前に学長になった時に、音楽学部、美術学部、映像研究科それぞれの教授会へ挨拶に行つたんです。僕の出身でもある音楽学部は女性教員も多いんですが、この時初めて美術学部の先生方をズラリと前にして、「なんだこのむさ苦しさは……」と(苦笑)。

このままではマズいと、ダイバーシティに適した環境を目指して、意識的にこの数年で女性教員をはじめ若手や外国籍の先生を積極的に採用することを始めたんです。特にデザイン科ではこれまで一人も女性教員がいなかつ

たので、革命を起こしてくれるのではと、スプツニ子！さんへの期待も大きいわけでした。S ありがとうございます(笑)。でも、なにの集まりだというイメージはもともとあります。泽 ありがとうございます(笑)。

ぜ今まで女性教員が少なかつたんでしょう? たのですが、女性教員が少なかつたんでしょう? たのですが、女性教員が少なかつたんでしょう? たのですが、女性教員が少なかつたんでしょう?

S ありがとうございます(笑)。

澤 1949(昭和24)年に東京藝術大学に

なる前身は東京音楽学校と東京美術学校だつたのですが、東京美術学校のほうは戦前は男

生校だったということに起因しているかもしれません。そしてその卒業生が作家や研究者としての活躍を経て教授になるという流れが

## 女性教員が少なすぎる!!

**澤** さて、4月に就任されてから藝大の印象はどうですか?

S 入学式では澤学長のヴァイオリンの演奏もあつたりと、学内の個性的な空気をひしひしこじました(笑)。藝大は面白い人たちの集まりだというイメージはもともとあります。泽 ありがとうございます(笑)。

始めて日は浅いですが、なかなかユニークな学生たちとの出会いもあり、期待が膨らんでいます。ただ、講義をするなかで、女子学生が多いという印象をもちました。デザイン科の学生も7割が女子。一方で、教授陣は9割

伝統的にあったんですね。

S とはいっても、男女共学になつてから70年も経っていますよね。他にも要因があるとすれば、それは日本社会における女性に対しての考え方ではないでしょうか。結婚したら女性が家事や子育てをして、仕事はどうせ辞めるんだろう、という視線を周囲から向けられる。徐々に変わろうとしているとは思うけれど、今なお強い風潮ですよね。そうすると、若いうちから自信を喪失する女性が育つてしまうと思うんです。それに一般的な労働環境においても同質の人材を雇用する傾向が強いですね。同質性が生んだ「自分と似ている人を周囲に配置しよう」という悪しき意識がはびこっていると感じます。

澤 その言葉を聞くとちょっと耳が痛いですね。僕自身が子育てや家事なんてほとんどやつてこなかつたものですから……。

S 役割を性別で分担するのは、もう時代遅れだと思います。最近はダイバーシティとい



## 澤 和樹

さわ・かずき

1955年生まれ。東京藝術大学大学院音楽研究科器楽専攻（ヴァイオリン）修了。2013年副学長に就任、音楽学部長を経て16年より現職。英国王立音楽院名誉教授も務める。ロン＝ティボー国際コンクール第4位、ミュンヘン国際音楽コンクール第3位などの功績をもち、国内外で活躍。

ります。今、社会も政治も芸術にしても、ものすごいスピードで変化していますよね。そんな時代にあって、これから人々が未来に踏み出していくことを考えた時に、「自分の力で考える」ということは極めて重要なこと。でもこれは、さまざまな考え方をもつている人と接しないとなかなか育つものではあります。私がこれまで特に欧米で仕事をするなかで体感したのは、ダイバーシティの存在することでコミュニケーションでは個々がまったく違う考え方

をするので、異なる考え方を取り入れたり、違いとどう共存するのか知恵を絞つたりすること。かたや日本の社会通念としては、基本的にみな同じ価値観や文化的背景をもつているものだという前提が、まかり通っている。そのような同質性がもたらすのは、自分で考えずに社会の『当たり前』に自分を寄せていくような人を生むことだけです。だから自分が周りと異なると、「自分が間違っているん

じやないか」と思つてしまいがちです。

**澤** 日本の社会ではこれまで女性が活躍するには、それこそ結婚や出産、家庭を築くこと自体をあきらめなければならぬ仕組みが多々存在してきました。子育て一つをとつても、家族やいろいろなコミュニティと分担しながら、女性が活躍できるような社会にえていかなければなりませんね。女性だけの問題ではない。男性も変わらないといけません。

**S** 私は女子学生に「自信をもつように」と声をかけることを意識しているんです。特に上の世代にロールモデルがないと、女性たちは知らず知らずのうちに自信をなくしてしまう。「私にはできません、務まりません」という言葉をよく耳にしますが、すごくもつたいないと思うんですね。日本独自の『謙遜』という美德なのかもしれないけれど、「できない」と発してしまえば、決してできるようにはなりません。やらないのであれば、それは女性にも責任があると思います。私自身はやりたいことしかやっていないので、若い女性のファンやフォロワーが多いことは素直にうれしいですが、「私もやってみようかな」

と自信をもつて行動してくれる人が増えることを期待しています。

#### 異なる視点から想像する

**澤** ある記事で、スプツニ子！さんは変身願望があると読んだのですが、実は僕もあって。



以前、中高生を引率してヴァイオリンの合宿に参加したんですが、ハーフだという理由で「おいガイジン、国に帰れよ！」などとイジメにも遭いました。その後も、数学や物理が好きというだけで「女性なのになんで？」と言われることもすごく多かったです。そのせいか、マイノリティの気持ちに自然と興味をもつたり共感したりできるのかもしれません。

**澤** 確かにそうですね。

をした時に、生徒たちを驚かせようと、宿でお世話をしてくれているおばちゃんのワンピースを借りてメイクをして女装したんです。カズキデラックスと呼んでいるんですけど(笑)。S キヤラが濃い方だとは思つていましたが、それはそれは(笑)。

**澤** スプツニ子！さんの作品、『生理マシー

ン、タカシの場合』も体験してみたいな、と。S サイズが合わないと思うのでつくり直さないと(笑)。変身願望というのは、自分以外の誰かの立場になつて考えることにつながりますよね。

澤 確かにそうですね。

**S** 私は日本で生まれて日本の小学校に通つたんですが、ハーフだという理由で「おいガイジン、国に帰れよ！」などとイジメにも遭いました。その後も、数学や物理が好きというだけで「女性なのになんで？」と言われることもすごく多かったです。そのせいか、マイノリティの気持ちに自然と興味をもつたり共感したりできるのかもしれないですね。

**澤** 「変身する」と「想像する」はすごく近いところにあるのかもしれないですね。

**S** 日本の小学校では、いい加減にやるのはダメだつて言われたり、「めんどくさい」って言うと怒られたりしたのもトラウマですね。めんどくさいと思うことはイノベーションの泉だと思うんですよ。私はこれを「メンドクサイノベーション」と呼んでいるんですが

絞ることは悪いことではないはず。いい意味でいい加減さがあると、住みやすい世界をつくることができる」と本気で信じていますから。仕事の会議にしても効率が悪いと感じることは多々ありますね。テレビ電話でできることなのにわざわざ電車に揺られて出向いて、先方も部下を引き連れて来たりする。それなのに部下はひと言も発することなくPCでメモを取るだけだったり。これでは残業も増えるだろうし、労力を無駄にしていると感じます。

**澤** 藝大でもまだまだ効率よくできる会議はありそうです。その時間を他の大事なことに使うべきだという意見がこれからどんどん出てくるような気がしますね。

**S** 東京減点女子医大の作品を制作してみて驚いたのは、変わろうとしない人たちが一定数いること。たくさんの方からサポートをいただいたのも事実ですが、医療関係のコンサバティブな男性からSNSでずいぶん攻撃もされました。「これ以上女医が現場に増えると困る」「産休・育休をカバーするために男性医師の負担が増える」といった内容です。少し調べればわかることですが、ドクターの

うち女医が占める割合は、OECD（経済協力開発機構）加盟国の平均が46%であるのに對して、日本は20%にすぎません。できていない理由を考えるべきですよ。労働環境を改善することは、男性にとつても幸せなことだと思うんですけどね。

### 言葉とコミュニケーション

**澤** 一つ、僕がずっとアイデアとしてもつてるのは、上野公園の中に「こども園」をつくることです。上野公園の周辺にあるいろいろな機関と協力して。ただ子どもを預かるだけではなく、音楽や美術の遊びを提供したい。

**S** それはすごいですね。若いアーティストやミュージシャンもなかなか仕事にならないという人もいると思うので、彼らの「アーティスト・イン・レジデンス保育園」のような機能も兼ね備えたら面白いですね。保育士やベビーシッターとして、子どものお世話をしながら絵や音楽を教えるというのはどうでしょう。生活もできて制作もできる。名案

**S** 藝大にいる人というのは、当たり前からはみ出しているというか、当たり前を疑つていると思うんですよ。だからこそ藝大が日本におけるダイバーシティの先駆的な存在であることにもうなずけるのですが、学生の課題の一ととしてコミュニケーション能力を高めることがあると思います。せっかく作品をつくる力があるんだから、それが何のためであるかしっかりと言葉でも表現できるようになってほしい。入試で描写技術などを評価すること自体はいいけれど、もつと話す力を重視してもいいのではないか、と。やはり今はその力が欠けていると感じます。

**澤** 「なんとなくわかっている」ではなく、言葉に自分の心を置き換えるということをやらないとなりませんね。これは僕もイギリスに留学していた時に強く思つたことです。入試のあり方についても、伝統は大切にしつつ、これでいいのか?と常に自問しなければ。そこはスプツニ子!さんのような人たちにどんどん介入してもらって、問い合わせかけてもらいたい。そうすることで多様な才能が生まれるチャンスも増えるのかもしません。

岡本 ダイバーシティ推進室が発足し、今年で4年目になります。最初に「多様性が明日の藝大をつくる」というダイバーシティ宣言を学長にしていただき、ジエンダーギヤップや多様性をテーマにしたシンポジウムやイベントなどを開催していく、去年は福中先生（「芸術系大学女性教育・研究者シンポジウム」）に、この夏は荒木先生（「聞こえる人と聞こえない人の『音楽』をめぐるトーク」）にも参加していました。

福中 面白かったです。それに、いろいろな問題が浮き彫りになつた感がありました。

# 芸術とジエンダー

私たちが、いま  
考えるべきこと

岡本 ひと言でダイバー  
シティといつても、音楽学  
部、美術学部、映像研究  
科、国際芸術創造研究科  
で、それぞれローカルな問  
題を抱えていますが、推  
進室では当初から女性研  
究者の積極採用や登用に

（「芸術系大学女性教育・研究者シンポジウム」）に、この夏は荒木先生（「聞こえる人と聞こえない人の『音楽』をめぐるトーク」）にも参加していました。

福中 音楽学部に限ると、女性教員の割合は、半々ではないもののそんなに低くはないんですね。

福中 向けた活動を続けてきました。これは、女子学生が全体の6～7割を占めている藝大で女性教員が全体の3割から4割、うち上位職と呼ばれる准教授以上が1割程度だったという現実があったからです。まずはこの不均衡に手をつけなければならないということで。

岡本、荒木 えーっ！

福中 さすがに今は言えないのでしようけど。でも、男女格差という以前に、西洋音楽をやるうえで自分たちが「非西洋人」であるといふから、ジエンダーは正直、喫緊の問題とは考えられてこなかつたのかもしれません。

## フェミニズムを避ける男性たち

荒木 そうですか。私は逆に、藝大の一員になつてからジエンダーの問題をより強烈に意識するようになりました。美術学部は圧倒的に女性の教員が少なくて、助手までは女性も多いのですが、助教以上になると1～2割程度でしようか。

岡本 彫刻にもデザインにも最近やつと女性の上位職が入りましたが、130年ぶり、つまりは創立以来なんですね。科によつては、まだゼロというところもあります。

文=大谷道子



荒木 美術界はどうかというと、これがやはり世界的に男性優位のフィールドなんですね。

美術館にコレクションされる女性作家の作品数はどこの国でも少ないし、女性のキュレーターは多いけれど、美術館の館長になる女性は、特に日本では少ない。

福中 うーん。

荒木 数もそうですが、発言力や人事的な意味での権限を持つ人、組織の方針を決めていく責任のある立場に女性が少ないことが問題です。もちろん、今は藝大でも女性差別意識の強い男性の先生は少ないはずですが、それでも男性は常に圧倒的多数で、そのことが半ば伝統になってしまっている。男性で日本人で、日本で教育を受けた人たちが常識だと思うこと、彼らが見ていいと思う作品や作風を支持することが問題だとは気づかれないんです。

福中 そういえば、美術界でも音楽界でも、「女流」という呼び方って日本独特のものですよね。

岡本 女流作家とか女性映画監督とか。

福中 なんでいちいち「女」がつくの？

と。女性はジェンダー的にセクシュアリティにも男性とは違った表現をする、ということが前提になっているんでしようけど。

荒木 そうですね。でもそのわりには、女性固有の考え方や視点が尊重されているとは思えない。よく女子学生から聞くのは、ジェンダーに関わる表現がしづらい、ということ。「フェミニズムっぽいからやめたほうがいいんじゃない?」と言われたりするそうです。

岡本 「特殊なもの」として隔離され、評価の対象でなくなってしまう。

福中 親切心からなんでしょうけれど、むしろそのことが問題ですよね。

荒木 いつの間にか表現の幅が狭くなるというの

福中 ただ、美術分野に関しては、やはり女性アーティストにしかできない表現というのをたくさん見てきたのも事実なんです。例えば、男性に生理のメカニズムを体験させるというスプツニ子!の作品《生理マシーン、タカシの場合。》(2010年)。美術の世界では、女性だとか、難民経験者だとか、マイノリティの視点からでないと絶対につくれない表現が高く評価されています。圧倒的多数である白人男性がつくりってきた美術史とはまったく異なる立場から、世界を見せていくからなんですね。

福中 でもそれって、マイノリティのアーテ

マイノリティだから、できること

福中 女性の音楽家の作品を発掘しようという運動が、かつて日本でも起こったことがあります。でも、それは男性優位の歴史を強化することにもつながりかねないとも感じたんですね。「女性だって男性と同じように優れた作品をつくるんだよ」と言うことで、逆にこれまでの歴史を補強することになってしまふのではないかと……。



イスト以外にはその分野でオーセンティックな表現はできないという考えにつながりませんか？

荒木 まずは表現が出てこないことは、私たちはその問題について知りもしないし、考えもしないじゃないですか。もちろん、マイノリティであることは前提ではないし、その人が女性だから、難民だからといってアートの世界でサバイブできるわけではありません。ただ、カウンター的な表現が出てくるということは、私にはすごく豊かなことだと思えるんです。

### 私たちのは「リボンの騎士」？

岡本 私のゼミでも、制作のプロセス

で女子学生が自分の生理や異性との初体験について話すことがあって、私も恥ずかしながらも応答するんですが、「これって男性の先生にはずっとと言えなかつたことなのかな？」と思ったりしますね。

荒木 そうなんでしょうね。たとえ男性の教員に理解されなくても、女性の教員が「あ、

岡本 複数いないと、女性のなかのダイバーシティも担保できませんよね。

福中 女性といつても、女性性のあり方はそ

何かわかる」「それってこういうことじゃないの？」と言ってくれたら楽になる。本当は、それが一人二人じゃなくて、もつといればさらにいいんですけど。

岡本 そう。話すときにも女性を感じさせないどころか、「おっさん」っぽく振る舞ってしまうことすらあって……。この間も、人数が増えたんだから女性教員の会をやろうと提案したら、女性たちから反対されたんです。「いやいやいや、それ怖いですから！」って。私、染まってるんだと思いましたね。いつの間にか男性のやり方になつてるんだと。

荒木 フフフ。男性の言葉や論理を使うこと

れぞれで。私自身は、友人はどちらかというと男性の方が多いです。たぶんあまり女性っぽくなくて、「女性にこういうことを言ったらまずいんじゃないか」という心配をしなくていいオーラを無意識のうちに持っているのかもしれません。もしかして今日は、藝大でもあまり「女性っぽくない」3人が集まってしまったのかも……。

岡本、荒木 ハハハ！



事ができているのかなとも思います。あるアーティストの女性は、「ときどき自分が『リボンの騎士』みたいに感じる」と言つていました。

**岡本** 手塚治虫のマンガの『リボンの騎士』ですね。

**荒木** そうです。主人公は本当は女の子だけれども、男の子の姿をしていますよね。圧倒的に男性が多いアーティストの世界で、彼女は対等に話ができる相手とされているんだけれども、男性の振る舞いに準じることで「お前は他の女と違う」という扱いを受ける。でも、それはやっぱり不自然じゃないかと。聞いて、ちょっとハツとさせられました。

**福中** うーん。確かに。

**荒木** だから、合わせざるを得ない部分はあるとしても、次の段階としては、男性的な言語ではなくもうちょっとリラックスして、自由に話せる雰囲気になるといいんですね。

**岡本** そうですね。教員同士でも学生との間でも一人ひとりの自由を担保していくことが、これからは必要なのかなと思います。

**福中** 女性の数が増えることがゴールではなく、その先の本当のゴールが何なのか、と。

## 岡本美津子

おかもと・みづこ

京都大学文学部史学科卒業。NHK勤務を経て、2008年より大学院映像研究科教授。専攻はアニメーション。17年より副学長。『Eテレ 0655』『Eテレ 2355』『テクネ～映像の教科書』(NHK・Eテレ)などの番組制作、ゲームやVRといった新しい技術やメディアを使った表現にも取り組む。



もつと学ぼう、世界を見よう

**岡本** 少しジエンダーから離れた話をすると、

藝大が5年前に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択されてから、留学生の数はかなり増えたんです。ただ、藝大の教育にドメスティックなところがあり、学生たちが戸惑うことがあるらしいですね。

**荒木** 本当のところ、藝大はグローバルにはなりたくないんじゃないでしょうかね？

**福中** 私もいろいろ思うところはありますね。例えば、海外から教員が1ヶ月来てレッスンするのは確かにいいけど、それって明治時代に政府がやっていたこととあまり変わりがないのではないか？とか。

**岡本** 新しいグローバル教育はすごく求められていて、推進室でもケーススタディを集めきましたが、成功している女性たちは、ほぼ海外に活路を求めているんですよね。ほとんどが、レジデンスを含む留学経験あり。現状、海外に行くしか道がないのか、と。

**荒木** とくに現代美術作家としてやつていくつもりなら、グローバルな場に身を置くしか

ないですからね。マーケットを考えても。そのためには、やはりジエンダー学のような社会的な勉強がもつと必要だと思います。

**福中** 同感ですね。音校でも、歴史、思想史の知識が欠如している学生が多い。先生方も、演奏家にとつてはそれほど重要性がないと考えておられるのかかもしれません……。

**荒木** 私は現代芸術概論という授業をもつていますが、そこでは芸術の話だけでなく、「社会は今こうなっているんだよ」という話を、なるべくするようにしています。なかには「日本に男女差別なんてあるんですか?」と言う学生もいるんですが、「日本はジエンダーギヤップ指数が149カ国中110位(世界経済フォーラム、18年発表)で、相当やばい国なんだよ」と告げると、みんな驚きますね。でも、世界の舞台からすれば、女性だけでなく日本人男性だって、圧倒的にマイノリティですからね。あぐらをかいている場合じやないんです(笑)。

**岡本、福中** その通り。

**荒木** そもそも、單一的な日本社会の価値観からいくと、アートを選択した時点で誰もが

すごく厳しい人生を選んでいるわけじゃないですか。だから、社会的に生き延びていくための戦略が必要なんだよと伝えています。そこを生き抜く知識を武器として持たせることも、教育機関の務めです。

## 荒木 夏実

あらき・なつみ

慶應義塾大学文学部英文学科英米文学専攻卒業。英国・レスター大学ミュージアムスタディーズ修士課程修了。94年より三鷹芸術文化振興財団学芸員を、2003年より森美術館キュレーターを務め、「ゴー・ビトウェーンズ展：こどもを通して見る世界」(2014)など数々の展覧会を企画した。18年より現職。



**岡本** まったくその通りだと思います。音楽も美術も、私の担当しているアニメーションも、アートは、発生した瞬間からグローバルな世界規模のものですから。だから藝大生は世界を意識するべきだし、大学はそれが可能になる環境と教育を、女子にも、もちろん男子にも整えていくことが責務なんですね。

**岡本** まつたくその通りだと思います。音楽

も、アートは、発生した瞬間からグローバル

な世界規模のものですから。だから藝大生は

世界を意識するべきだし、大学はそれが可能

になる環境と教育を、女子にも、もちろん男

子にも整えていくことが責務なんですね。

# 中村美亜さん に聞く

社会のなかで  
芸術活動をする  
ということ

身体、性別、それぞれにある個性。  
相互に理解し手を取りあうために、  
アートに、表現にできることとは?  
現役学生である近藤銀河さんが、  
社会包摵につながる芸術活動について研究する  
本学卒の先輩に問い合わせました。



文 大谷道子

**近藤** 私はパンセクシュアル（相手のセクシユアリティを限定しない全性愛者）というマインノリティとして、またフェミニストとして研究や制作を行っているんですが、学生同士で話をしていてやはり皆が言うのが、「セクシュアリティに関する授業がないよね」ということなんです。ジェンダー、フェミニズムなどを扱う授業が現状、ほとんどありません。

**中村** 一般教養科目にもないんですね。

**近藤** はい。サブジャンルとして扱う先生はいらっしゃるんですけど……。それに以前、フェミニズムについて語るということを聞いて期待して行つた授業で、教員から同性愛に対する差別的な発言が出てきてショックを受けたこともありました。やっぱり授業がない、専門の先生がないことはすごく残念で。

### クイアな集団の閉鎖性

**中村** それには、藝大の成り立ちも大きく関係しているでしょうね。そもそも美術学部も音楽学部も職業訓練的に芸術を学ぶというところから始まっているし、とくに美術学部は前身の東京美術学校が男子校として始まつた

こともあり、前は男ばかりの学校だつたんですよ。美術学部に女性の先生がはじめて入られたときは、大変苦労されたと聞きました。私もここで、トランスジェンダーを表明してからも10年以上仕事をさせていただきましたが、ある意味、皆がすごく個人主義ですよね。

**近藤** そうですね。

**中村** もちろんそれは、一般的の社会にいるよりははるかに居心地がいいことでもあるんです。ある友人は、「木を隠すには森（変わつたヤツは変わつたヤツの集団に交じればわからなくなる）」と言つていましたが（笑）。

**近藤** フフ。皆がクイアですから。

**中村** そう、一般的な価値観から外れている個人主義者の集まり。ただ、世の中が変わつてきているなかで、それに対応した考え方をしようという気風があるかというと、実はない。ここはよくも悪くも近代芸術を推進する

すよね。今も昔も、世の中にはいろんな人間がいるじゃないですか。男女もそうだし、健常か障がいがあるかという点においてもグラデーションがあるし、民族的背景だってそれに背負つている。でも、そういうことをほとんどの考えず、既存のカテゴリーを無批判に用いて、かつ、芸術なんだから何でも自由に表現していいと素朴に思つてゐる。

**近藤** 「天才なら許される」みたいな観念は、今でも藝大では信奉されていると思います。

**中村** ええ。そして、ロマン主義的な価値観のもう一つの問題は、社会と隔絶したところで閉じこもるとそこで創造的なことが生まれると信じられていること。でも、美術でも音楽でも大作家になつた人たちがずっと閉じこもつていたかというとそんなことはなく、むしろ外界から刺激を受けて予期しない何かが起ることで面白いものを生み出しています。

**近藤** 社会とのつながりを絶つてしまふと、その社会にない価値観が生み出せなくなつてしましますよね。

**中村** その通り。それなのに、まだ社会から隔離した芸術家像から逃れられない人が多い。

芸術家の存在意義は世間一般のそれとは違う価値観を示すことだと思うんですが、現状のままでは芸術の意義がどんどん狭められていくんじゃないかと、とても危惧しています。

### 表現は、世の認識を変えられる

近藤 表現することは、すごく大きな力になりますよね。私は今、慢性疲労症候群／筋痛性脳脊髄炎という病気で車椅子での生活ですが、表現を通して人とつながることが、自分自身のエンパワーメント（生きる力を引き出すこと）にもなっていると感じます。去年から今年にかけて、先端芸術表現科の人たちと一緒に車椅子を使つたパフォーマンスを練習して、5月にそれを公開したばかりで。

中村 ヘえーつ。

近藤 体育館には階段しかなかつたから、私が行くときは皆が上り下りを手伝ってくれたり、私ができない動きのときは、皆が相談しながら考えてくれたりして、すごく楽しくて。

中村 先生が制作された社会包摶のハンドブック（P.21参照）にも、マイノリティがエンパワーメントされるだけでなくマジョリティの

意識が変わることが大切だとあつたんですが、協働するなかで皆が変わつていったということもあつたのかな？と。何より、私をお客としてではなく、一人のパフォーマーとして対等に扱つてくれたことがうれしかつたです。

中村 素晴らしいですね。自分と違う人と一緒に時間を過ごして何かやるのって、けっこ大変じゃないですか。おっしゃるように、誰か他の人と何かをしようとするときには、お互いに変わつていかないとしようがない。

アーティストが作品をつくり上げていくなかで、自分が変わつたと思える、そうやって生まれた表現はとても強いでしょうね。社会の仕組みはなかなか変えられなくとも、認識やコミュニケーションは変えられる。そんなところに、芸術はフツと入り込んでいけるんです。

近藤 でも、マイノリティが表現を行うためには、実際にはさまざまな困難を乗り越えてはならない。それが簡単でないことをどうやつたらわかつてもらえるんだろう？とも



近藤銀河  
こんどう・ぎんが

東京藝術大学美術学部芸術学科4年。研究と作品制作の傍ら、ジェンダーとフェミニズムを中心にアート、文学、映画など幅広い作品の評論、発信を行う。学生団体「東京藝大LGBTナドナドの会」を主宰し、映画上映会などのイベントも企画。note (<https://note.mu/gingak/>)公開中。

思うんです。たとえば、セクシュアルマイノリティの問題を提起するために、「私はセクシュアルマイノリティです」と言わなくちゃいけないという現実がありますよね。

**中村** 私たちが望むのは、マイノリティとして認めてもらうことじゃなくて、「マイノリティかもしれないけれど、あなたと私はあまり違わないですよ」と理解してもらうことです。違わないというか、「一人ひとりが違う程度に違う」ということかな。でも、マイノリティだと言うと「あなたと私は違う」ということが強調されてしましますね。

**近藤** ええ。そして、たとえ表現の上では一緒になれても社会のなかではなかなか一緒にはなれないな、とも……。セクシュアリティもそうだし、私の体だと、どこへ行くにも事前に電話をして「エレベーターはありますか?」と聞かなければならないし。藝大には古美研(古美術研究旅行。P.26 参照)がありましたが、参加するときは大変でしたね。1年くらい前から打ち合わせを重ねて、準備して。  
**中村** なるほど。

**近藤** どうしたって困難さはあるのに、それ

を無視してパフォーマンスだけして「一緒にできたね! 拍手!」で終わるのは、すごくもつたない。社会包摶を単に社会参加と読み替えただけの取り組みも、少くないので。

**中村** 結局、芸術にできることは、人の心を揺さぶって認識を変えることだろうと思うんですよ。これは、他のことでは非常に難しくて、芸術か教育じやないと不可能かと。人の目を見開かせたり、頭をゴツンとやつて「考えろ!」みたいなことができる分野って、実

はなかなかないんです。ただ、それを実際の世界を変えるための動きに結びつけるとなると、厳しいものがあるのも事実ですね。

**近藤** 先生が学生の頃、何か大学に対して思つていらしたことはないんでしょうか。けつこうエンジョイされていらしたのかな? と。  
**中村** ゼンゼン! いつもボツンと一人で大浦(食堂。美術学部構内)でご飯を食べていて……(笑)。嫌われていたわけじゃないけど、誰と何をしていいのかよくわかんない、とい



## 中村美亜

なかむら・みあ

九州大学大学院芸術工学研究院准教授。同大ソーシャルアートラボ副ラボ長。東京藝術大学音楽学部卒業、学術博士。東京藝術大学助教などを経て、2014年より現職。著書に『音樂をひらく——アート・ケア・文化のトリロジー』、『クィア・セクソロジー——性の思いこみを解きほぐす』ほかがある。

う感じでしたね。まあ、今と違つて、ちゃん  
と授業に出なくともよかつた時代だつたし。

近藤 アハハ！

中村 それこそ私も、大勢いる個人主義者の  
一人だつたのかもしれません。基本的に他人  
にあまり期待をしないほうなので、大学にも  
そうだつたんだと思います。でも、ただただ  
ボーッとしていたわけではなくて、やりたい  
ことは常にあって、それをその時々、一生懸  
命にやつていたという感じで。

近藤 冒頭、クイアな人がたくさんいて居心  
地がよかつたとおっしゃつていましたが、今  
はセクシュアリティについても、構えてカミ  
ングアウトするのではなく、普通に言える子  
がたくさんいますよね。でもそのぶん、言え  
なくて苦しんでいる子もたくさんいて。

中村 そうでしょうね。

近藤 その人たちの行き場のなさというのが、  
すごく問題だと思っているんです。授業もそ  
うなんですが、彼、彼らのための組織がな  
い。今は大学には特別修学支援室というとこ  
ろがあるて、そこへ行けば、例えば大学で使  
用する名前の表記や性別について、どのよう

に変更手続きをすればいいか相談にのつてくれたりもします。でもそれも、履修案内に小さく書いてあるだけで、たぶん知らない人のほうが多いんじゃないかと。

### 人との関わりが拠りどころに

中村 私の勤務している大学もそうですが、今はどこでも学生支援に関しては、それなりに予算をつけますからね。

近藤 ええ。でも、利用する側の学生として恐れるのは、そういうところで不当な扱いを受けたらどうしよう?ということなんです。受けたらどうしよう?ということなんですね。望まない形でアウティング(セクシュアリティなどを公にされること)をされるとか……。

中村 私も学生のとき、セクシュアリティのことではないけれど悩んでいることがあつて、相談に行つたことがありますね。そうしたら、説教されちゃつて。説教というか、話を聞いてもらえたかったという感じかな。

近藤 私も行つて話してみましたが、今の方はいろいろ頑張つてくださつているなと思いました。私は病気で休学したこともあって、いろいろなことをサポートしてもらつていて。

私がいつも行く美術学部の中央棟には車椅子で使える多目的トイレもあるし、練習で通つた体育館にもエレベーター・スロープがついたし……。最初、「困つてます」となかなか言いにくかつたんですけど、私の後に入学してくる車椅子の学生たちが困らないように、なるべく言つたほうがいいんだろうなと。

中村 それ、本当に大事だと思いますよ。

近藤 先生方や職員の方たちも「後の人のこともあるんだから、気にしなくていいんだよ」と言つてくださつて。やっぱり、大学が支援の姿勢を示してくれるのはありがたいです。マイノリティのためだけではなく、たとえばハラスメントを受けたときの告発のしやすさとか、そういった点でも安心材料になるかと。

中村 そうですね。こういうことって、すぐには100%満足な状態になるものではないけど、何度も何度も言つて、少しづつでも変えていくしかないんですよ。で、気がついたら「あ、変わった」と感じられる。ジエンダーの問題もそうです。ジエンダー・セクシュアリティ研究の偉大な先輩である竹村和子さん

1年没（もおつしやつてました）が、「変わらな  
いっていつも、50年前とはぜんぜん違うわ  
よ」と。少しずつ、よくはなつてているんですよ。

**近藤** 時間をかけて取り組んでいかなければ  
ならない課題だということですね。

**中村** ええ。表現もそうですが、誰かと誰か  
が知り合つて、そこでピュツと何かが生まれ  
て……というようなものではなくて。人とも、  
場所や地域とも関係を築いていかないと。

**近藤** そうですね。あと、私の車椅子や、あ  
るいは聴覚や視覚といった身体的な障がいは  
他の人も体験しやすい想像もしてもらいや  
すいと思うんですが、たとえば自閉症や知的  
障がいといった、目に見えにくい困難を実感  
してもらうにはどうしたらいいんだろうかと。  
**中村** うーん。でもその方法を考えるのも、  
これからアーティストのやるべきことじや  
ないでしようかね。どうやつたら近しいこと  
が体験できるか、と考えるなかで、新しい表  
現が生まれていく可能性もある。人との関わ  
りつて、ものすごい創造性の源だと思うんで  
すよ。それこそ、内にこもって創造するのと  
はまったく違つて、開かれた関係を築きなが

ら、でも自分の、他人とは違った表現を導き  
出していくことができるはずなので。

**近藤** 本来は共有不可能なものを、アーティ  
ストが共有可能なものに翻訳し直す、とか？

**中村** そもそもアーティストって、「見える化  
かつた価値を見える化する人」じゃないです  
か。世の中にあるけどわからなかつたものや、  
て……というようなものではなくて。



中村さんが文化庁と共同で編纂した、  
芸術における社会包摂の入門書。  
[bit.ly/syakaihousetsu](http://bit.ly/syakaihousetsu) からDL可能。

人と人との間に生まれるものを作りや上演に  
よつて形にして、「ここに価値がある！」つ  
て具現化する。

**近藤** それが実現すれば、包摂されていた側  
の人にとっては新しい可能性が見えてくるし、  
それまで包摂されていなかつた人が新しい表  
現で包摂されることになりますね。

**中村** そうそう。その意味でも、芸術は社会

にとつて関わりの深い、大事なもの。世の中  
とは関係ないなんて、とんでもない話ですよ。

**近藤** ちょっとした発見や工夫で人の見る風景が変  
わるし、人間同士が関わりながら生まれてき  
た作品があれば、それが拠りどころとなつて  
「私はこの世の中に生きてていいんだ」とい  
う感覚を、皆がもてるようになる。

**近藤** アーティストの能力のあり方も変わっ  
てくる、ということでしょうか。

**中村** 全員がそんならなければいけないとい  
うことではないんですけどね。でも、藝大も最  
近ダイバーシティなんて言うようになつたんだ  
から、単に「マイノリティと協働した」という  
だけでなく、時間をかけてつきあつていくプロ  
ジェクトをもつと推進したらいとと思います。  
**近藤** ええ。一学生である私としても、「ど  
う変わっていくか、じっくり見させてもらいま  
すよ」という気分になつています(笑)。

**中村** フフフ。大学って、やっぱり若い人を  
守つて育てる場所。誰もが羽ばたいていける  
環境をつくるのは大学の務めだし、それを要  
求するのはとても正しいことだと思いますね。

# 藝大のダイバーシティ関連の取り組みいろいろ

(いい意味で)一風変わった人々が集う藝大をさらに多様性ある豊かな土壤へと導く!?注目すべきプロジェクトを紹介します。

## 多彩すぎる先輩たちの経験談を参考に多様性のある大学環境の実現を

### ダイバーシティ推進室



昨年5月、藝大出身の若手作家3人(秦俊子さん、飯山由貴さん、シシヤマザキさん)に、卒業後の働き方などについて聞いた会の様子。

- ネットワーク構築・意識改革  
女性の卒業生による講演やキャリアデザインに関するセミナーなど、芸術分野に関わる女性たちが直面する課題について教職員や学生が話し合える場を提供。
- 支援・環境改善  
ライフィベントに対応した支援制度の構築、育児・介護中の研究者を補助する教育研究支援員の配置などにより、職場・研究・教育をとりまく環境を改善。

#### ● 情報発信

ホームページ、リーフレットなどで女子学生や若手教職員のキャリアデザインに資する、教職員や卒業生の活躍の様子を伝える情報を発信。

女子学生が全体の6～7割を占める日本の芸術系大学は、イノベーションが生まれる社会づくりに不可欠な「女性」「クリエイティブ人材」の宝庫です。

しかし実際には、教授や准教授の大部分が男性であり、女性のアーティストや研究者のキャリアパスが可視化されづらい状況が続いています。『例えば『出産や育児などによって、キャリアをあきらめたり中断したりする女性がいまだに多い』『女子学生が参考にできるロールモデルが少

ないために、自分の将来像を描きづらい』『領域によってはジェンダーバイアスが根強く残っている』といったケースが後を絶ちません』と語るのは、ダイバーシティ推進室の海田恭子さん。

東京藝術大学ダイバーシティ推進室はこのような状況を改善すべく、文部科学省による科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」採択を受け、2016年秋から次のような活動を行っています。

「同じ女性でも生き方は一人ひとり異なるため、課題への向き合い方もさまざまです。とはいっても、以前は意識されていなかつたジェンダーの話題を表に出すだけでも変化は起きるもの。イベントなどをを行うたびに多くの教職員・学生から『こんな話を聞きたかった』『将来が不安だったが勇気づけられた』といった声が集まっています」(海田さん)



### 6月30日のシンポジウム「女性・芸術・キャリア」

では、資生堂の山本尚美さんと音楽キャリアデザイナーの久保田慶一さんによる講演も。

寸劇やリトミックを交えて披露。期間後半は、映像研究科が「2010クワイア・アニメーション上映+ミニレクチャーセッション」では、出演者たちが育児経験を生かし、多彩なプログラムを実施。芸術部先端芸術表現科と国際芸術創造研究科が、「音楽」をめぐるトークを実施。芸術と芸術表現の多様性を学内外に印象づけました。

**学部やジャンルの枠を超えた  
さまざまなイベントで  
藝大と芸術表現の多様性を発信**

### ダイバーシティ月間 2019

藝大は今年、6月中旬～7月中旬を「ダイバーシティ月間」として5つのイベントを開催。ダイバーシティ推進室が企画したシンポジウム「女性・芸術・キャリア」では、美術家の宮永愛子さんと指揮者の三ツ橋敬子さんがさまざまな壁を克服した経験を率直な言葉で語りました。岡田裕子さん、長島有里枝さん、山本麻世さんを迎えたトーク「女性のアーティストが親になる時」では出産や育児に関わる赤裸々な証言が次々に飛び出し、客席から切実な相談が寄せられる場面も。

子育て中の声楽家による「音もだち航空で行く」世界の音楽ソア「」では、出演者たちが育児経験を生かし、多彩なプログラムを実現。期間後半は、映像研究科が「2010クワイア・アニメーション上映+ミニレクチャーセッション」と、美術部先端芸術表現科と国際芸術創造研究科が、「音楽」をめぐるトークを実施。芸術部先端芸術表現科と国際芸術創造研究科が、「音楽」をめぐるトークを実施。芸術と芸術表現の多様性を学内外に印象づけました。

「TURN」とは、障がいの有無、世代、性、国籍などの違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を表現として生み出すアートプロジェクト。アーティストで本学の美術学部長である日比野克彦教授が監修、藝大の海外大学とのネットワークを生かし、海外でも展開しています。

アーティストが福祉施設などへ赴いて共働活動を行う交流プログラムを、これまでブラジル、アルゼンチン、エクアドル、キューバ、ペルー、ボーランドなど複数の国で行ってきました。「地域によって文化は異なるといいますが、例えば南米の施設で出会う自閉症の方と日本の自閉症の方との間に地域性による違いはほとんどない。アートを介してさまざまな地域のマイノリティといわれる人々と関わると、地域の違いを超えてもっと根っこにある人間性を見つけることができます」と日比野学部長。来年夏には東京オリンピックに合わせ、その成果を作品や記録映像の展示、ワークショップなどによって発表する展覧会を開催予定です。

**根源的な人間らしさを発見  
東京オリンピックの  
文化プログラム**

### TURN～海外編～



『TURN in BIENALSUR 2019』ではアルゼンチンのアンデス山脈の村で先住民族キルメス族の文化復興について地域の人々と制作しながら考えた。

## 高齢者向け住宅に アーティストが暮らしたら！? DOORの注目プロジェクト

### アーティスト・イン・ そんぽの家S王子神谷

「アート×福祉」をテーマに、多様な人々が共生できる社会の実践者を育成する履修証明プログラムDiversity on the Arts Project（通称：DOOR）。

人と人が出会うことで生まれるクリエイティブな視点や振る舞いが社会に積み重なっていくことが、より多様性のある社会を創出するという考え方のもと、社会人と60名余りの藝大生が共に学んでいます。

その修士生と藝大生が、SOMPO ケア株式会社との共同プロジェクトとして、高齢者向け住宅に1年間居

住し高齢者個々のユニークさに着目した制作活動を行っています。入居中の作家たちによると、「会うたびに同じ会話をする人がいる。まるで演劇を見ているようで興味をひかれます」（柳雄斗さん）。「言葉のやり取りは難しくとも、私の何かに反応している。みなさんもつと自分のことを伝えたいと思っていると感じています」（樺嶺琳さん）。彼らが日常的に表現活動を行うことで、近隣の人々と高齢者が顔を合わせる機会も増えています。



車椅子利用者ほか皆が使う施設内エレベーター。  
樺嶺琳さんは「エレベーターガール」として、乗ってきた人の服の色を描き入れ、絵画を制作。

## 違いを認め合い 芸術を通して交流 『障がいとアーツ』の新企画

### 七感で楽しむシアター

2011年から毎年行われている、すべての人が芸術を通して交流するイベント『障がいとアーツ』。「今でこそダイバーシティという言葉が聞かれるようになりましたが、当初は周囲の理解もなかなか得られず試行錯誤のなかで、聴覚障害者が楽器演奏するための音量視覚化アプリ、肢体不自由者がピアノを弾くための自動伴奏装置などを開発・発表してきました」と語るのは、東京藝術大学CO-C拠点インクルーシブ・アーツ研究グループの新井鷗子特任教授。



2018年12月に行われた『障がいとアーツ』のコンサート「聞こえる色、見える音」より。『障がいとアーツ』は毎年奏楽堂で開催。

こと。違いを認め合い多様な価値觀を受け入れた時に、人は初めて同じ舞台に立てるのだと思います」。12月1日には新企画「七感で楽しむシアター」を開催。耳で見る色、目で聞く音、人間の多様性が生み出す超感覚を「七感」と名づけ、あらゆる感覚を刺激するステージをつくります。義足のダンサー大前光市さんのために世界的作曲家藤倉大さんが制作したダンス音楽の世界初演は必見。

7月に行われた第2回「表現者としての在日朝鮮人たち」では李晶玉さんのアート活動に触れ、在留外国人による自己表現の意義を再考。



企画を統括する留学生のヤン・チユンティンさん曰く、「多くの外国人が日本各地に住み、地域社会の多様化が進む現状をクローズアップし、社会学×現代美術、在留外国人×日本人といった視点からさまざまな表現活動を行うゲストの取り組みを紹介しています」。7月に行われた在日朝鮮人2世の社会学者ハン・トンヒヨンさんと3世のアーティスト李晶玉さんの対話では、「世代間の社会背景の差異に言及する場面も」「グローバル化をめぐる在留外国人の多様性」という観点で、在留外国人による自己表現の意義を再考する企画でした。

## 在留外国人の多様性を考える イミグレーション・ミュージアム・東京のレクチャーシリーズ

### 多文化社会における アートのチカラ

足立区千住地域を舞台に、藝大が主催するアートプロジェクト「アートアクセスあだち音まち千住の縁」。その一環として美術家の岩井成昭さんが主宰し、日本に暮らす外国人の生活に根ざした異文化を共有するプロジェクト「イミグレーション・ミュージアム・東京」(IMM)では、来年開催予定の展覧会に向け、レクチャーシリーズ「多文化社会におけるアートのチカラ」を開催しています。

藝大のダイバーシティといえば、近年急増している留学生の存在も欠かせません。本学では今年5月現在、35カ国275名の留学生が学んでおり、美術・音楽・映像の各現場で異文化交流が行われています。全学的な取り組みとしては、グローバルサポートセンターや国際企画課が主催する親睦会をはじめ、日本文化体験イベント、留学生と事務職員の英会話セッション、留学生が自らの創作や研究を日本語で発表するイベントなどがあり、いすれもさまざまな背景をもつ学生・教職員が相互理解を深める機会となっています。

7月に葛飾区の伝統的な日本家屋で開催された「日本文化体験イベント・箏ワークショップ」には、約20名の留学生が参加。邦楽科の卒業生・福田恭子さんと大学院生らによるレクチャーと演奏を、自らも箏曲演奏家であるブラジル人留学生の日英通訳つきで楽しんだ後、参加者たちは初めて間近で見る箏を前にドキドキしながら爪をはめ、正座し、「さくら」を演奏しました。

## 急増している留学生と 日本人の学生や教職員が 相互理解を深める機会

### 留学生の日本文化体験イベント



留学生たちの箏の音に対する印象は「悲しげ」「落ち着く」「余韻がきれい」「雄弁」などさまざままで、教える側にとっても「刺激になった」のだそう。

# 古美術研究旅行

1日目

帰ってきた  
“最強の案内人”

法隆寺・中宮寺・法輪寺・慈光院

歴史は一世紀強。美に親しむ旅

学を修める旅と書いて、修学旅行。中学高校でいい思い出つくつた方、たくさんおられることでしょう。しかし、藝大の学生にはまだあるんです。

美術学部の3年次（一部例外あり）に挙行される、日本美術の聖地、京都・奈良の2都市を巡る2週間の旅、その名も「古美術研究旅行」。旅行とはいえ、10単位に相当する必修科目でございます。

略して「古美研」の歴史は古く、開始は美術学部の前身である東京美術学校の頃、明治29（1896）年に遡る。つまり、ざっと120年もの歴史を誇る、おそらく日本最古クラスの、しかも芸術専門の修学旅行なのだ。いかな美術オーナーといえども、これは体験させていただくしかありません。ということで、我らが『藝える』編集長のF先生率いるデザイン科A班24名の旅程前半、奈良の旅の2日間にお邪魔する運びとなつた。

さてさて、日程表によるとこの日の訪問先は、ユネスコ世界文化遺産にも登録された至宝・法隆寺をはじめ、中宮寺、法輪寺、慈光院という豪華

授業SANKAN GO!GO!  
古美研スペシャル

青春の思い出の金字塔、修学旅行。藝大にも、実はある  
んです。美に触れ感じる学びの旅に(2日間だけ)密着!

挿絵=小柳景義 文=大谷道子

ラインナップ。さすがさすが、と見入っていると、  
いつになく緊張の面持ちでF先生が現れた。

「今日はね……いきなり旅のハイライトなんだよ」  
何でも、古美研最強の案内人といわれる方が、  
代打で2年ぶりに解説役として登場されるという。  
仏師であり、京都を拠点に仏像や寺院の調査研究  
と修復を手がける矢野健一郎先生。仏師で最強とい  
えば、作務衣を着て黒帯を締めた仁王像、とい  
うイメージ（超貧困）は、登場直後、あつさりと  
覆された。スーツに身を包み、蟻廣の帽子を小粋  
に被つた矢野先生は、シユツとして身のこなしは  
軽やか。仁王どころか往年のミュージカルスター、  
フレッド・アステアの趣すらあるではないか。

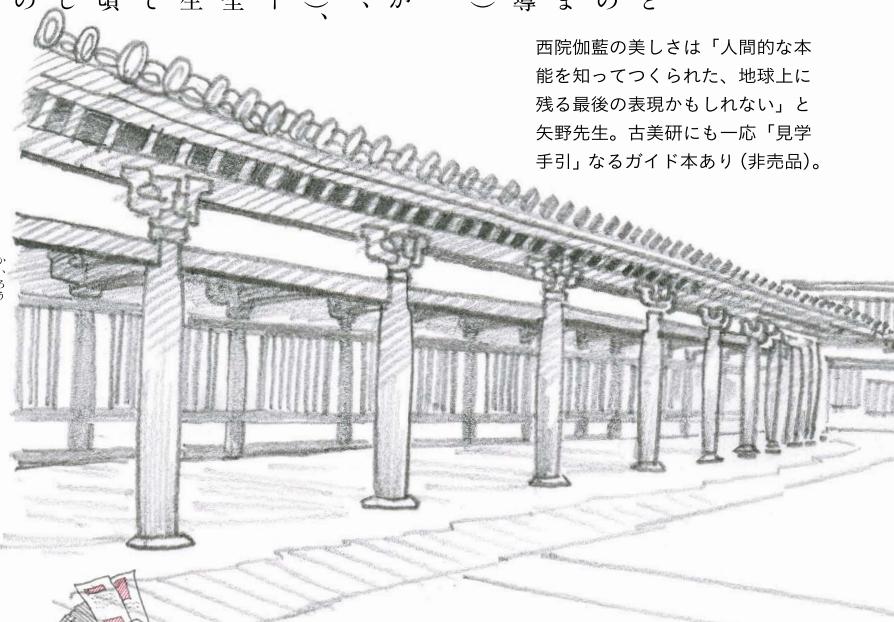


その語りに誰もが虜になるミスター古美  
研・矢野先生。あの健脚はどうやって?

## 「Wikipedia でわかることは話さない」

……あっさりしてはる(つい染まつてしまふ関西弁)。曰く、「僕は、ネットで検索してわかるようなことは話しません」とのこと。

「誰がつくったとか、何年にできたとか、覚えていい。皆、覚えるの嫌でしょ? 僕もそうだけど、文字情報を記憶するタイプじゃないと思うんだよね。ビジュアルで覚えないと何も残らない。だから、どんなふうに建てられているかを見て、そこから何かを感じるのが大事です」



西院伽藍の美しさは「人間的な本能を知つてつくられた、地球上に残る最後の表現かもしない」と矢野先生。古美研にも一応「見学手引」なるガイド本あり(非売品)。

はてさて、どのように最強なのか……期待に胸を彈ませつつ、2018年度に導入された専用バス(ゴージャス)に乗り込み、斑鳩へと向かつた。

法隆寺といえばご存じ、聖德太子ゆかりの寺院。金堂、五重塔、夢殿ほかの建造物に、觀音菩薩像(百濟觀音)、觀音菩薩立像(夢違觀音)、地藏菩薩立像など国宝、重要文化財のオンパレードだ。滞在時間は2時間半弱。名だたる宝物を全部見て回れるか? すると矢野先生、マイク(生徒はイヤホン)をセットし、西院伽藍に向かつてスタートと歩き出す。この足が速い! お年頃は60代とお見受けするが(後で調べたら71歳でした)、ぼんやりしていると置いていかれるほどの健脚だ。慌てて小走りで後を追う。

折しも初夏。西院伽藍は子どもにお年寄り、外国人も交えての大観光客群で、端的に言つてワツチヤワチヤである。さあてどこから神解説が、と思ひきや、矢野先生、建造物や宝物はスルーし、空間の成り立ちについて語り始めた。



「もともとここは廻廊でパッキングされた空間。

中は貴族しか入れない特別な空間で、圧縮された緊張感のある空間だつたはずなんだよね。今はこんなんですけど……。何か質問ある? ジゃあ、あとは1分ほど各自で観察してください。あ、お堂の中のものは見なくていいので。よろしく」



東京藝術大學  
美術學部附屬

古美術研究於設

「これがエンタシス（柱の中ほどが膨らんだ構造）。授業で習つたでしょ？ 柱が並んで、天井は虹梁といつて、少し湾曲している。その上に人字形の束（短い柱）、そして連子の窓。これで飛鳥時代のお寺の廻廊が成立します。この空間の豊かさが、藝大生ならわかるはずだよね」

て隣の中宮寺でも空間の優美さをゆつたりと堪能し、昼食を挟んで向かった法輪寺では、古美研カリキュラムの中に何度か織り込まれる、噂の「スケッチタイム」が。日本の寺院では撮影やスケッチが禁止されているところも多いが、そこは120年のお付き合いのある藝大のこと、事前に交渉した場所で特別にお許しをいただいているのである。

藝大生、  
國の宝に挑む

たはずのエレガンスも感じ取れそうな気がする。この体感こそが、古美研の醍醐味か。あれこれをいちいち見て回れば、確かにスケジュールはギチギチ。だが悠久の時を重ねた空間に身を置き、宝物とともに時を過ごすなら、決して短い時間ではないかもしれない。焦つて波立つていた気持ちが、先生の言葉でふんわりと冴<sup>さわ</sup>いでいく。

—メモを取つているけど、どうして？ 本物が目の前にあるのに、パンフレットを持って指示書きを読みながら歩いたって、何も残らない。いちばん大切な、感動というものがないじやない」  
おっしゃる通りです、ミスター古美研！ 続い

講堂に入り、対面するのは重要文化財・十一面観音菩薩立像をはじめとした貴重な仏像の数々。言わずもがな、壯觀だ。矢野先生の号令で、まずは全員が合掌し礼拝。心を落ち着けてから、およそ40分間、学生たちは像に向かう。

音と葉ずれの音、鳥の声。古の時代の修行僧たちも、こんな学びの時をここで過ごしたはずだ。

次なる目的地・慈光院は、江戸時代、將軍の茶道指南役でもあつたという茶人・片桐石州せきしゆうのお屋敷。お菓子と一服のお茶をいただきつつ、学生たちはそれぞれに庭を眺めている。一日中疲れ知らずの早足だった矢野先生も、おくつろぎの様子だ。

「僕自身は4年前の卒業生。あの頃の古美研っていうのは、もつとグチャグチャでしたねえ。学生が集まるとアルコール臭くつて、文句が出た時代ぶわいじ（笑）。デザイン科は、とくに強者が多かつたな。



今はおとなしいですよ。女子が多いし、男子も。でも、どんなにやんちゃな卒業生も、他の学校の先生になると、ちゃんとそこで古美研をやるんだよね。それが、実際に面白い。やつぱり行つて体験しないとわからないことが、たくさんある。『現場で考えよ』という、それが伝統なんだろうなと

### 合宿バンザイ！

さて、2週間にもわたる旅の間、学生たちはどのような生活を送っているか。簡単に言うと、奈良では「合宿」だ。宿舎の名称は「古美術研究施設」。1968年設立の美術学部附属の施設である。

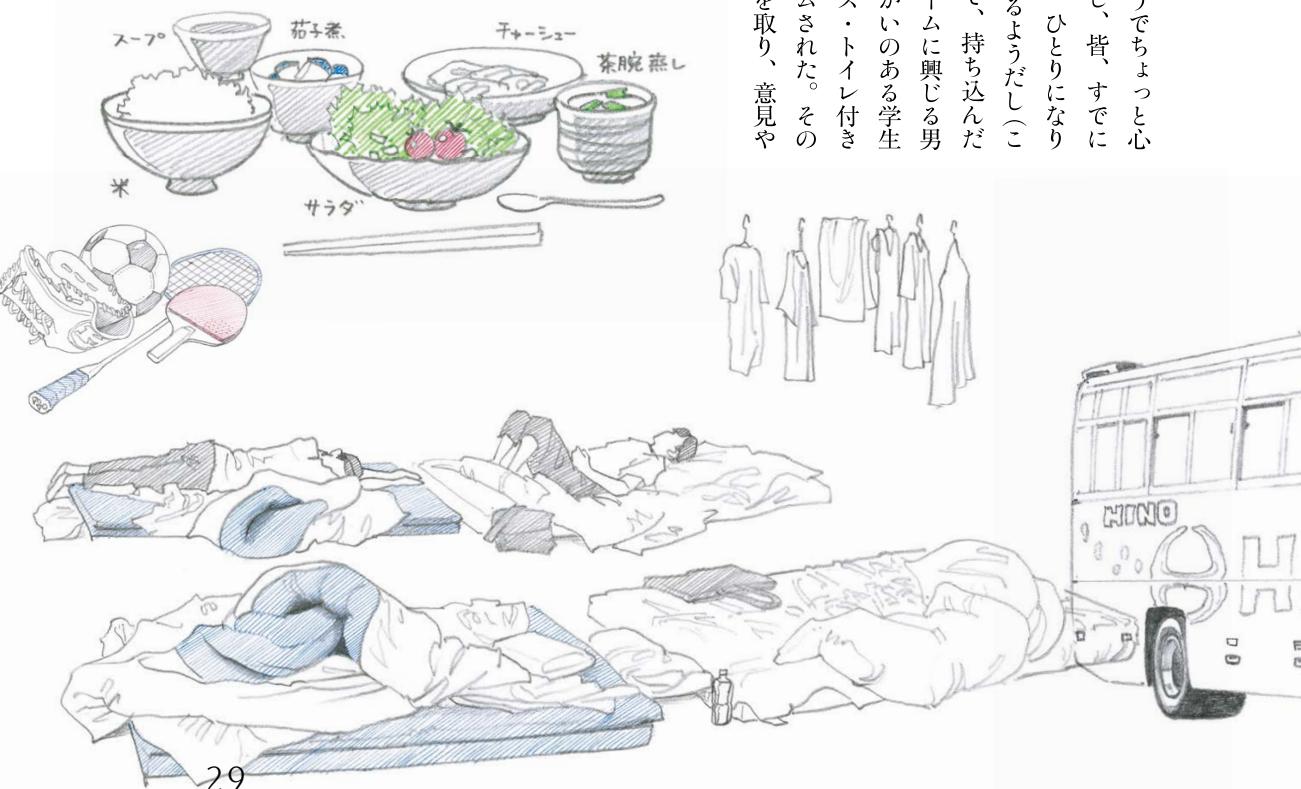
学生の宿泊場所となる和室が1つに、2段ベッドを備えた6人部屋の洋室が3つ、8人部屋の洋室が1つ。デザイン科は女子多数(14名)のため、洋室は女子生徒が使用し、男子は和室へ。布団敷きの男子部屋は由緒正しい修学旅行風(枕投げしない)、女子のベッドはカーテン付きで個を保つつも、ドミトリールームらしい喧騒に満ちていた。

しかし、大学3年生ともなると、それぞれが個の確立した青年。加えて今は、個を尊重する多様性の時代である。大勢での共同生活、ぶつちやけ、大丈夫ですか？

「思つたより平氣です」と某女子。  
「僕も。逆に、京都ではホテル暮ら

しになるので、バラバラになりそ�でちょっと心配」とは某男子。まあ、3年生だし、皆、すでに気心は知れているわけですね。ひとりになりたい人は、それなりの空間もあるようだし(この日は「娯楽室」という名の部屋で、持ち込んだゲーム機をつないでオンラインゲームに興じる男子1名あり)。2017年には障がいのある学生の参加に先立ち、館内の一室がバス・トイレ付きのバリアフリールームにリフォームされた。そのほかにも毎年、学生にアンケートを取り、意見や要望を反映させているという。

ちなみに、宿舎は奈良公園にほど近い中心部にあるが、「遊びどころはあんまり……ないで」と学生たちは苦笑。宿舎に戻ると入浴したり洗濯をしたりと、それぞれの時間を過ごす。



## 宝物は いと高きところに

室生寺・長谷寺・聖林寺

### 階段、階段、また階段

明けて2日目。早朝の出発にも遅刻する学生は皆無で優秀、優秀（ただひとり遅れたのは、この取材の前に重ねた疲労と夜酒で寝過ごしたAD



のA氏のみであつた。伝統的藝大生！）。バスで向かうは、宇陀市郊外の山懷にある室生寺。国宝の五重塔、金堂（薬師堂）を擁する古刹である。

今日の引率は、古美研施設の施設長も務める芸術学科教授の松田誠一郎先生と、古美研施設専任の助教である荒木泰恵先生。バスの中で聞いたところによると、同じ古美研でも学科によってその訪問先は、けっこう異なっているらしい。

「先端芸術表現科は昨年、和歌山の熊野大社や三



重の伊勢神宮に。建築科は古代から近代の名建築を見に行きますし、デザイン科は京都の古い町家を見学するなど、プログラムに個性が出ます。美術学部だけでなく、音楽学部の邦楽科や楽理科にも古美研があつて、面白いところでは、春に京都の北野をどりの舞台を見に行くとか、お寺に声明（僧侶による声楽）を聞きに行くとか」（松田先生）

へえーっ。近年は外国の美術大学から訪れた学生や教員を案内し、喜ばれたこともあるという。確かに、知識豊富な専門家の解説のもと名だたる古美術を鑑賞できるなんて、一般向けに旅行会社でツアーチ組んだらすぐに満杯になりそうだ。

室生寺到着。その昔、女性が入山できない真言宗の総本山・高野山のかわりに女性が参拝したことから、女人高野とも呼ばれたお寺は、静謐で優雅な佇まい。金堂内へ入り、間近で見入ることができるもの、古美研のありがたさだ。祝迦如来像に手を合わせ、五重塔を眺め……ているとその隣に、山頂の奥の院まで延々と延びる階段が。

「では、上がりましょうか」

今日はちょっと歩きます、とは聞いていた。し



芸術学が専門の松田先生（イラスト左）。荒木先生（同下）も同じく理論系。「実技系の学科の学生たちは、見て感じたことを素直に話してくれます。こちらも刺激を受けますね」

かしこの傾斜、控えめに言つてもほぼ絶壁では？そこから先の20分は、修行の一語に尽きた。若い学生さんたちが仔鹿のよう駆け上がっていくのと、まるで違う重力感。鍛錬不足の体と脚が憎い。這々の体でたどり着いた奥の院で引いたおみくじ「凶が多くて有名なんだ」とF先生）が幸いにも大吉だったのは、仏様からのご褒美か。

### 五体投地で宿願成就？

昼食後、あじさいなど四季折々の花々が美しいと評判の長谷寺へ。初夏の緑が目にしめる。しか



たどり着いて拝んだ観音像、なんと今日は御足に触れてもよいとのこと。「この仏様は皆さんのお欲と願望をかなえてくださるそうですから、膝をついてお願ひしてみましょう」と荒木先生。学生たちは五体投地の要領で次々と足に触れ、神妙な面持ちで何らかのお願い事をしている。特別拝観の日にいただける五色の紐は縁結びの御利益があるといふし、いいことあるといいね、若者たち。

そして、この日の最終目的地である聖林寺へ。ここでもスケッチタイムが設けられている。描くのは、山の上（まだ階段！）の御堂に鎮座する国宝・十一面觀音立像。木でつくった骨組みに、木の粉や植物の纖維と漆を混ぜた木犀漆というペースト状の素材を塗つて造形した、頭身が長くスタイル

に比べて傾斜がゆるやかなのは「着物の女性が上りやすいんですよ」と荒木先生。雅だ。が、ゆるやかな分、段数が多い気がする。しかし、壇上ではこれまた特別拝観の御本尊、十一面觀音立像にお目にかかるのだ。重文のためならと、笑う膝をこらえながら上る。あとでスマートの万歩計を見たら、この日上った階数は「48階」だった。

し、ここにもまた階段に次ぐ階段。さつきの石段に比べて傾斜がゆるやかなのは「着物の女性が上がりやすいんですよ」と荒木先生。雅だ。が、ゆるやかな分、段数が多い気がする。しかし、壇上ではこれまた特別拝観の御本尊、十一面觀音立像にお目にかかるのだ。重文のためならと、笑う膝をこらえながら上る。あとでスマートの万歩計を見たら、この日上った階数は「48階」だった。

のいい、なんというか、普通に美形な仏様。

「いい像ですよね。明治時代の日本人は、こうした美術をヨーロッパの美術に負けないものだと捉えて、日本の美術を歴史的に系統付けようと試みました。その際にも、ギリシャの古典彫

刻に匹敵する美しさを持つ像だと高く評価されていました。そういえば先日、大正8（1919）年に行われた古美研の日程表を見ていて、長谷寺に来た日に近くの聖林寺に寄つていなかつたのなぜだろ？と思つて調べたら、その頃には、まだこの収蔵庫ができていなかつたんですね。十一面觀音は奈良の帝室博物館（現・奈良国立博物館）に収蔵されていたので、当時の学生たちは、たぶん夜行列車で奈良に着いたその足で、博物館に行つて見たんでしょう」（松田先生）

大正8年といえば、東京から関西へ行くとなれば、汽車でまるまるひと晩を要した時代。その後の移動も徒歩が多く、体力的負担も今とは比べものにならないほど大きかつたはずだ。階段くらいで悲鳴あげていてどうする！ 柔和な觀音様の微笑みは、きっとかつての学生たちの眠気と疲労を鮮やかに払つてくれたことだろう。



## この風景が、将来、きっと違つて見える

今、古美術を見るとは、どういうことなのか？時を忘れてスケッチに励む学生たちの姿を見つめながら、ふと考えた。デザイン科の学生たちがこれから先の将来取り組むのは、時代の先端をゆく美術表現。日本画も、油絵も、建築も彫刻も工芸も、おそらく同じだ。いつの時代でも、若いクリエーターが志すのは、最新の表現。けれど、古美研は120年間、脈々と続いている。

「古美術の見方がよくわからない、おもしろくなないな」と言う子も、やっぱりいます。そういう子には『今日見た中で、どれがいちばん好き?』って聞くんです。あるいは、『この中から1個、どちらを持って帰つていいよと言われたらどれを持って帰りたい?』と。これ、私の大学時代の師匠のやり方なんですが、そうすると皆、一生懸命見始めるんですね。『自分はこれがいい!』って確かに。捉え方、理解の仕方を問われると、とたんに「お勉強」と化す。でも、鑑賞は本来、もつと自由なもののはずだ。もちろん、創作も。「そうなんです。ですから、学生たちにはあまり知識を詰め込もうとせず、とりあえずたくさん見て、感じてもらえたたらと。本当の意味や価値に気づくのは、後になつてからでもいいと思うんです」と荒木先生。松田先生も続ける。

「逆に、美術史や芸術学専門でない人たちが古美術と向き合うから、大切な発見があるんだろうなと、毎年、古美研に参加していて思いますね。見て感じたものを、それぞれが自分の制作に取り込むという視点で古美術に向き合う。古いものを見て新しいものの創作につなげる、そんな柔軟な接し方に面白みがあるんだと」

そういうえば、若い頃に自分の国の美のオリジンに触ることの重要さを、昨日、矢野先生も説いていた。先生はカンボジアで遺跡修復の指導に従事されているのだが、現地で法隆寺を例に修復のプランを語つたとしても、法隆寺を知らないはずの現地のスタッフがその意図を理解し、ちゃんと目指す像が共有できるのだという。自分の中に美のスタンダードを持つことが、いかに大事か。

「これから皆、グローバルな世界に生きるわけだけど、そのときに自國の文化の個性を、きちんと

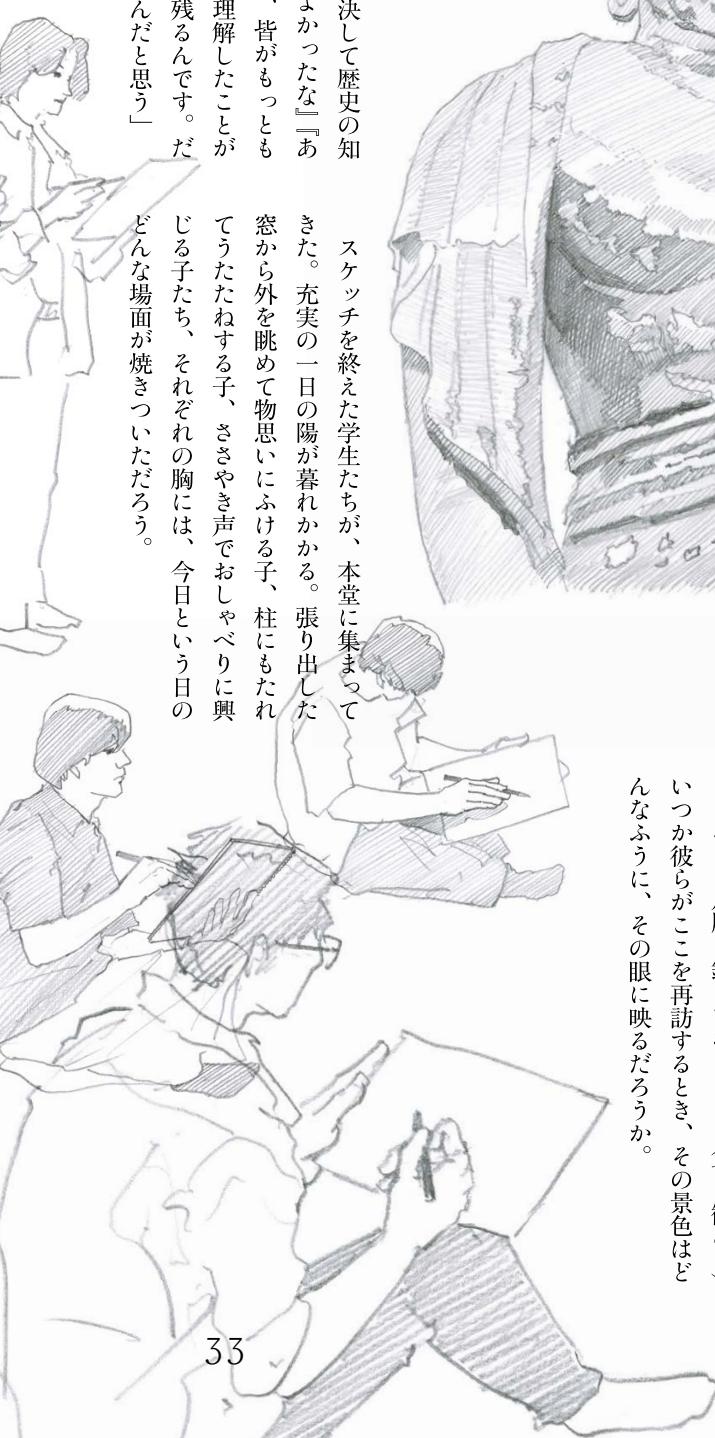
幾代にもわたって藝大生にスケッチされてきた聖林寺の十一面觀音。背後には、一度見てください。今見ている庭の景色が、いろいろな経験が重なるにつれて、見え方は変化する。それが成長するということだつたり、大人になるということだつたり……」（荒木先生）

「お庭を見に行くときなんかに、よく学生に言うんです。『もしよければ、5年後、10年後にもう一度来て見てください。今見ている庭の景色が、たぶんぜんぜん違つて見えますよ』と。自分の中でいろいろな経験が重なるにつれて、見え方は変化する。それが成長するということだつたり、大人になるということだつたり……」（荒木先生）

長い学生生活の中のスペシャルな2週間が、若者たちの心に美の種を蒔き、それが大きく育っていく。伸びゆけ、若者。頭と心は柔軟に、付け加えるなら、足腰も鍛えておくように（切に勧める）。いつか彼らがここを再訪するとき、その景色はどんなふうに、その眼に映るだろうか。

意見として語れなければ。それは決して歴史の知識じやなくて、『あそここの空間、よかつたな』『あの並びはきれいだったな』という、皆がもつとも

才能を発揮できる、感性の部分で理解したことがいちばん大事で、それが最後まで残るんです。だから、藝大は古美研を続けていたんだと思う」





藝  
える  
人  
!?

## ミケと芸猫会

ミケ／10年ほど前から上野校地に棲みついている藝大の猫の代表的存在。頻出スポットは音楽学部の正門より20mほど上野駅側のフェンスと建物の間。性格は、クール！？

2017年に発足した「芸猫会」。芸大とその周辺に生息する猫を見守り、芸術を通して動物愛護活動を発信する総勢40名から成るサークルだ。その活動の実態とは？

### めざめ.. 藝大を縄張りにする猫たち

辺りが暗くなり始めた夕方5時半。音楽学部がある上野校地へ餌やりに現れたのは、芸猫会の代表・館野真由花さんだ。現在、姿を見せる『野良』は5匹ほど。ミケ、ドードー、キジなどの愛称が付けられ、サークルのメンバーが交代で給餌を行っている。

### まよい.. 学生ボランティアとして

「基本的にボランティア活動なんですね。だからメンバーに活動を強制することはできないし、それぞれモチベーションも異なりますね」と話すのは、広報の宮武苑子さん。「でも、猫との信頼関係を築くためにも毎日の餌やりは欠かせないので。長期休暇も授業がない日も。そこはメンバーの責任が重要な面があるかもしれませんね」（館野さん）

「まずはこの活動を継続することが大事だと思っています。私たちの代で終わらせてしまっては意味がないから」（宮武さん）

「最終的にはノラ猫がゼロになる環境が理想です。里親を募集することもあるので興味のある人は連絡をください！」（館野さん）



右から、広報の斎藤百萌さん（修士／楽理）、副代表の松原奈美さん（修士／オペラ）、代表の館野真由花さん（修士／声楽）、会員の山下未紗さん、涉外の河合雪子さん（修士／器楽）、広報の宮武苑子さん（学部／楽理）

### ゆめ.. 着実に続けること

台東保健所の獣医師の指導を受けるなど保健所と協力して活動を続けてきた芸猫会だが、日々、猫を見守るなかで必要だと感じているのは、保護活動を行う周辺地域の人々との更なる連携だ。「皆が猫好きなわけではないから、問題解決が簡単ではない部分がある。情報共有のためにも地域のボランティアの方々と協力していきたいです」（館野さん）



気まぐれに姿を見せるスージー。名前の由来は、スッと通った鼻筋。

芸猫会ではほかにも副代表・千葉豊さん（修士／楽理）、広報兼涉外・高橋慶さん（修士／オペラ）、会計・高津萌子さん（学部／楽理）ら40名で活動中。入会したい芸大生、餌やりのお手伝いをしてくださる方は、geinekokai@gmail.comまでご連絡ください。

# お知らせ

今後の催しや大学のさまざまな取り組みを紹介



上：除幕式の様子。左から、澤和樹学長、安良岡章夫理事、清水泰博理事

下：1914（大正3）年頃の建設当初の写真

再生工事は今年6月から始まり、既存のレンガを一つ一つ丁寧に取り外し、補強対策を行い、同じレンガを使用して復元。昔ながらの姿を残しつつも耐震性のある門

## 100年続く正門を100年先へ正門再生プロジェクト

東京藝術大学正門再生プロジェクトは、老朽化した正門を建て直すプロジェクトです。約100年前の1914（大正3）年頃に建てられ、藝大生を見守ってきた正門を100年後の藝大生へ引き継ぐことを目的としています。

再生工事は今年6月から始まり、既存のレンガを一つ一つ丁寧に取り外し、補強対策を行い、同じレンガを使用して復元。昔ながらの姿を残しつつも耐震性のある門

として生まれ変わり、9月初旬の藝祭にてお披露目されました。本プロジェクトでは、クラウドファンディングや藝大基金などを通じ、6月の日までに119名の方々から支援をいただき、一部支援者のお名前は再生した正門のレンガに刻まれました。今回再生で

きる正門の範囲は限られています。残された箇所も再生できるよう、引き続き皆さまからのご支援を募集しています。

お問い合わせ：施設企画係  
☎ 03-5010-0101-2003

## 「出島」にいらっしゃい！藝大アートプラザ

ソトとウチをつなぐ玄関口「出島」の愛称でおなじみの「藝大アートプラザ」では、さまざまなお企画が進行中。ソトにいるお客様へ

藝大の敷地内でアート作品を購入できるの

はココだけ。ぜひお越しください。

ウチにいる皆さまへ

藝大生・藝大卒業生・藝大の先生、ぜひとも作品を寄せてください。

今後の企画展としては、10月5～27日の『おみやげ展～Souvenirs of life～』をはじめ、11月1～17日の『藝大アートプラザ大賞（コンペ）受賞者招待展』、11月20日～12月8日の『一音でつくる・音をつくる・かたちをつくる』のほか、『開店！藝大漫畫喫茶展』『アートプラザ大賞コンペティション』『道場



4月26日～5月26日に開催した『藝大の猫展』の様子

## 大学院映像研究科の公開講座が 栄えある賞を受賞

大学院映像研究科の公開講座「コンテンポラリーアニメーション入門」が日本アニメーション学会賞「特別賞」を受賞しました。同講座は、横浜市民をはじめ、広く一般の方を対象に2009年7月の開始から昨年まで10年間、通算30回開催されきました。受賞は本学と横浜市文化観光局の連携による事業の長年の功績が評価されたものです。「商業アニメーション作品と比較すると、鑑賞する機会が非常に限られて

いる現代短編アニメーションを上映・紹介するだけでなく、国内外から作家や研究者を招聘し、一般にひらかれた形で作品の技法、テーマ、思想、文化などあらゆる側面からの討論を継続的に行なっていることは特筆に値する」とは、日本アニメーション学会の評

(<https://www.jsas.net/archives/482>)。今年も全3回開催し、3回目はカナダから監督を招き、10月20日17～20時に馬車道校舎で上映・講演などを開催します。皆さまのお越し



事業代表の山村浩二教授

## 学生たちによるレガシー創出 東京2020復興のモニュメント



本学では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、東京都、岩手県、宮城県、福島県、株式会社レーティングと連携し、藝大

生と被災地の中高生によるワークショップを通して、東日本震災の仮設住宅で使用し、被災地支援への感謝や大会に出場する選手への応援のメッセージを載せたモニュメントを作ります。大会中、そのモニュメントは大会関連施設に設置され、選手などからサインとともに大会後、被災地へ移設されます。その後も本学は、モニュメントを軸とした文化プログラムを開催することにより文化芸術発信の拠点（レガシー）を目指します。なお、本プロジェクトは、現在政府が進めている「日本博」事業の一環として文化庁協力のもと推進するもので、「2019年度日本博会」を契機とする文化資源「コンテンツ創成事業」の助成を得て実施します（<https://www.ntj.jac.go.jp/nihonhaku/>）。

東京藝大ウィンド

オーケストラは、6

月27日～7月4日、

南フランスのリゾー

ト地として知られる

ラ・クロワ・ヴァル

メールでの吹奏楽フ

エスティバルとパリ

日本文化会館にて、

初となるフランス公

演を行いました。

## 東京藝大ウィンドオーケストラ 熱(暑)かったフランス公演

東京藝大ウィンド  
オーケストラは、1935  
年に東京音楽学校の生徒吹奏  
楽団として発足し、現在も学  
生によって構成されている、  
本学が誇る吹奏楽団。今回の  
公演は、2016年にアメリ  
カ・シカゴで藝大生の演奏  
を聴いたフェスティバルの音  
楽監督からの熱いラブコール  
を受けて実現しました。

40度を超える記録的な熱波  
に見舞われた南仏では、なん  
と野外ステージで4公演！



しかし、猛暑以上に熱烈な歓迎と惜しみない拍手を頂き、大成功を収めることができました。これからも、国内外で本格的かつ楽しい音楽をより多くの方のもとへお届けしたいと思っています。

南仏ラ・クロワ・ヴァルメールでの公演の様子

## 大学ホームページにて 藝大コンテンツ発信中！

藝大のホームページでは、さまざまなコンテンツを発信しています。

### 藝大人たち

活躍する著名な卒業生のも

とへ現役の後輩学生が訪問。

### カズキチャマ Season's Greeting Animation

澤和樹学長がゆるキャラ「カズキチャマ」になつて登場（実は「藝える」

第1号の澤学長と箭内道彦教

授の対談から誕生）。春夏秋

冬の季節ごとに皆さまに挨拶

しています。

### 藝大生の親に生まれて

藝大生が親子で登場。受験や進路、学生生活について率直に語っています。

定期的に更新されますのでぜひご覧ください！

国谷裕子の  
クローズアップ藝大

藝大の理事であるキャスターの国谷裕子さんがさまざま  
な研究室を訪問し、教員との  
対談を通して藝大を深く掘り下げる対談企画。

「私にとっての東京藝大」を

國谷裕子の  
クローズアップ藝大

6月13日 更新 山村 浩二

6月17日 更新 金田 達

藝大リレーコラム

6月4日 更新 生田 和美

6月10日 更新 田中 真一

藝大生の  
親に生まれて

7月1日 更新



上：手塚雄二《雷神雷雲》1999年 下：手塚雄二《風雲風神》2000年 共に今井美術館蔵

## 大学美術館各館の 展覧会

大学美術館 本館  
退任記念 手塚雄二展  
10月10～24日



北郷悟《空から一風》  
2008年 福島県立美術館蔵

美術と教育 全国リサーチ  
プロジェクト 2019  
こんな授業を受けてみたい！  
「呼吸する彫刻」退任記念  
北郷悟展  
11月7～17日  
10月13日～11月4日



大学美術館 本館

### 「内包された温度」展

11月7～17日

2019  
コミニテコルベールアワード  
11月9～20日

11月9～15日

東京藝術大学 大学院美術研究科  
博士審査展  
保科豊巳退任記念展 「萃点」  
2020年1月7～19日

11月2～15日

11月9～18日

12月9～18日  
東京藝術大学 大学院美術研究科  
博士審査展  
保科豊巳退任記念展 「萃点」  
2020年1月7～19日

11月9～14日

11月19～24日  
×佐野ルネッサンス鑄金属展  
「鎌金の幻想」  
12月6～15日

11月19～24日  
装置とは限らない  
12月6～15日



保科豊巳《水の記憶》  
2017年 中国

大学美術館 陳列館  
聴く絵画・観る音楽  
—リナイウオーリ祭壇画—  
10月9～14日

第68回東京藝術大学  
卒業・修了作品展  
1月28日～2月2日

大学美術館 奏楽堂（上野）  
奏楽堂の演奏会  
藝大オペラ定期第65回  
10月5日・6日各14時  
全席指定  
S席5,000円  
バルコニー席4,000円  
藝大プロジェクト2019  
「クラーク・シユーマン生誕200年  
に寄せて」第一回  
10月10日19時  
2,000円

ヒトは描くときに  
何を見ているか

うるしかたち展 2019  
10月9～14日

11月2～15日  
東京藝術大学  
×佐野ルネッサンス鑄金属展  
「鎌金の幻想」  
12月6～15日

11月9～14日  
装置とは限らない  
12月6～15日

11月9～14日  
東京藝術大学  
×佐野ルネッサンス鑄金属展  
「鎌金の幻想」  
12月6～15日

11月9～14日  
装置とは限らない  
12月6～15日

## 弦楽シリーズ 2019

10月14日15時 2000円

藝大プロジェクト2019

「クラーラ・ショーマン生誕200年

に寄せて」第3回

10月20日15時 2000円

音楽学部附属音楽高等学校

第31回定期演奏会

10月26日14時

無料 要事前申し込み

ピアノシリーズ 2019

ロシア室内楽のタグ

11月1日19時 3000円

管打楽器シリーズ 2019

11月2日15時 2000円

藝大フィル合唱定期第39回

11月8日19時 3000円

うたシリーズ 2019

11月10日15時 2000円

ウィーン 愛の物語

11月10日15時 2000円

（平日10時30分～17時）

藝大フィル定期第39回

11月14日19時 3000円

ワインドオケ定期第88回

11月16日14時

一般 1500円

高校生以下500円

## 邦楽定期第86回

11月20日18時 2000円

シンフォニー・オケ定期第60回

11月21日19時 1500円

七感で楽しむシアター

Seven Senses Theatre

12月1日14時 全席指定

一般券 1000円

アクセシブル券（障害者手帳や療育手帳などをお持ちの方）500円※

ペア券（障害者手帳や療育手帳などをお持ちの方と介助者1名さまの並び席）1500円※

※印の券および車椅子席の予約は

左記のフォームからのみ承ります

予約フォーム [bit.ly/nanakan](http://bit.ly/nanakan)

本公演に関するお問い合わせ：

東京藝術大学演奏藝術センター

☎ 03-5777-8600

（ハローダイヤル）

＊演奏会チケットの取り扱い

ヴァーゲル・チケットセンター

☎ 03-5355-1280

チケットぴあ

☎ 03-7010-021-0999



奏楽堂

アンドレア・マルコン  
オルガン・リサイタル

11月20日18時 2000円

2月16日15時 2000円

モーニング・コンサート第13回

2月20日11時 1000円

\*展覧会・演奏会の名称、会期・日時などが変更になる場合があります。最新情報は、東京藝術大学公式ウェブサイト (<https://www.geidai.ac.jp/>) をご覧ください。

＊演奏会についてのお問い合わせ

東京藝術大学美術館  
☎ 03-5777-8600  
（ハローダイヤル）

＊演奏会チケットの取り扱い  
ヴァーゲル・チケットセンター

☎ 03-5355-1280

チケットぴあ

☎ 03-7010-021-0999

藝大アートプラザ（店頭販売のみ）

☎ 03-5525-2102

東京文化会館チケットサービス

☎ 03-5685-0650

イープラズ

<https://eplus.jp/>

小畠善昭 退任記念演奏会

3月19日18時 要事前申し込み

角野裕 退任記念演奏会

3月21日15時 要事前申し込み

第14回奏楽堂企画学内公募演奏会

3月27日未定 入場無料

## ○藝大基金寄附者ご芳名

東京藝術大学基金(藝大基金)へ温かいご支援を賜りました皆様に、深謝申し上げます。

本号では、2019年1月から2019年6月までに寄附の申し込みをされた皆様を

掲載させていただきます(掲載をご承諾された方のみ)。

### [個人の皆様]

宗次徳二様 2600万円	高仲裕樹様 1万円	金子豊様	野原よし子様
早川良一様 50万円	高橋榮子様 1万円	河合全代様	早川圭子様
佐藤隆幸様 30万円	戸松令子様 1万円	河合康利様	東田昇様
佐橋俊彦様 30万円	中村篤様 1万円	川上操様	久田敏様
岩田智佐子様 10万 3000円	仁田脇申一様 1万円	栗林理人様	福田紀子様
砂川昭男様 10万円	野間俊一様 1万円	小島さち代様	古谷孝行様
上村京子様 5万円	長谷川信久様 1万円	小宮里美様	松橋満様
齋藤敏榮様 5万円	平山一哉様 1万円	佐野靖史様	松本千鶴様
志賀泰子様 5万円	古川誠様 1万円	志村明善様	御園明日美様
白井國江様 5万円	本多佐保美様 1万円	酒々井夏子様	峯佳代子様
杉村佳代子様 5万円	村上徳子様 1万円	芹川房江様	宮原節子様
田中寧様 5万円	門田伸一様 1万円	田村優佳様	三好克美様
中里周子様 5万円	山崎一朗様 1万円	田村隆児様	武藤智恵子様
三木稔様 5万円	山田安孝様 1万円	千葉一彦様	森永浩次様
粧美智子様 5万円	渡邊敬一様 1万円	辻井源広様	山村彰義様
玉置雄三様 3万円	渡部鉢之様 1万円	帰屋正様	横橋政夫様
三浦さえ子様 3万円	渡部昌吉様 1万円	長浦武史様	和田貞男様
高橋篤也様 2万円	藤本洋子様 7000円		
田所厚一郎様 2万円	大久保優美様 5000円		
安井君子様 2万円	喜屋武貞男様 5000円		
羽鳥健司様 1万 2000円	松原千鶴様 5000円		
阿部博子様 1万円	松本勝弥様 5000円		
新井繁男様 1万円	遠藤成夫様 3000円	[法人の皆様]	
石井淑子様 1万円	河野里香様 3000円	株式会社ミロク情報サービス様 1000万円	
石原薰様 1万円	富成亮介様 2222円	三思会様 100万円	
上田武夫様 1万円	久保法之様 2000円	アニマート・グループ株式会社様 30万円	
大槻泰史様 1万円	森智子様 2000円	アプロス株式会社様 30万円	
小河原頼一様 1万円	四本泉様 2000円	株式会社丸正様 20万円	
窪田雅章様 1万円	五十嵐尚美様	有限会社ひまわり様 10万円	
小島敏光様 1万円	伊澤仁之様	丸充建設株式会社様 10万円	
小林五月様 1万円	稻塚美代子様	NPO 日暮里プラオフィス様 1万円	
小林秀夫様 1万円	内田正巳様	株式会社伊豆榮様	
坂井満様 1万円	奥野幸代様	株式会社坂入産業様	
鈴木一美様 1万円	笠次良爾様	一般財団法人若林暢音楽財団様	

## ○藝大基金のお願い

「藝大基金」は、東京藝術大学の長期的・安定的な財政基盤として、教育研究活動や社会連携活動の一層の発展と、我が国における芸術文化の振興などに資することを目的に設立されました。各種プロジェクトなどの実行と、学生へのさらに充実した支援体制を築くため、広く地域社会や企業などの皆様からご寄附を募っております。藝大基金の趣旨にご理解をいただき、ご支援を賜りますようよろしくお願いします。

### お問い合わせ

藝大基金事務局 ☎ 050-5525-2400

藝大基金ウェブサイト <http://fund.geidai.ac.jp/>

### 編集部より

『藝える』編集部では、皆様からのご意見・ご感想などを待ちています。今号の内容についてのご感想や、今後のご要望などありましたら、こちらまでお寄せください。

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

東京藝術大学内 『藝える』編集部

Fax : 03-5685-7761

E-mail : [toiawase@ml.geidai.ac.jp](mailto:toiawase@ml.geidai.ac.jp)